

令和2年度事業報告

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大という未曾有の危機により、当協会の事業も甚大な影響を受けました。終息の兆しが見えない中、県民の皆さまの健康を第一に考え、対面交流事業の一部や大学生の海外派遣研修は中止を余儀なくされました。手探りでオンライン・ツールの導入を試み、地域日本語教育に係る研修や外国人のための日本語スピーチコンテストなどで活用しました。

令和2年度から地域日本語教育の体制づくり推進事業を開始し、日本語ボランティア教室等関係者の連絡調整会議や新規学習支援者の開拓講座等を開催しました。地方自治体、市町村国際交流推進組織等のご理解とご協力も得ながら継続してまいります。

事業の実施にあたっては、県、市町村、関係団体組織と目標を共有し、役割分担や協働することを念頭に効率的な事業運営を目指しました。

また、経営面においては、外部資金の導入や賛助会員の増強に努めるとともに、事業の見直しや経費節減により支出を抑制し、経常収支が均衡に近づくよう努めました。

1 共に目指す多文化共生社会づくり

(1) 外国人が安心して生活できる環境の整備

① コミュニケーション支援

外国人が生活していく上で県民としての様々な情報が得られるよう、多言語によるホームページ、フェイスブックや外国人支援図書など多様な媒体により情報提供を行いました。

- ・対応言語：日本語、英語、中国語、ポルトガル語、タイ語、タガログ語、スペイン語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語（10言語）

また、外国人が身近で日本語を習得する機会が得られるよう、日本語教室の開講・運営について支援しました。

◇多言語でのホームページ、フェイスブックなどにより情報を提供しました。

- ・情報発信件数 527件
- ・ホームページアクセス数（日本語及び多言語） 23,376件

◇多言語での生活ガイドブック、災害時マニュアル、メディカルハンドブック等を配布及び電子書籍により情報提供しました。

◇3言語（英語、中国語、ポルトガル語）での外国人児童生徒のための健康手帳を配布及び電子書籍により情報提供しました。

◇多言語生活情報リンク集の運用

令和元年度に多言語で立ち上げたポータルサイトにおいて、国や公的機関が発信する生活関連情報を随時更新しました。

- ・対応言語：日本語、英語、中国語、ポルトガル語、タイ語、タガログ語、スペイン語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語
- ・対象者：在留外国人
- ・内容：生活全般、出入国・在留資格、労働、出産・子育て、日本語学習、年金・福祉、防災、他

◇外国人の日本語学習の支援

(公財) 茨城県国際交流協会日本語教育アドバイザー派遣事業により、日本語教授法講座を実施するボランティア日本語教室を支援しました。

- ・アドバイザー登録者数 22名
- ・派遣期間 令和2年8月1日～令和3年2月28日
- ・派遣先 7団体
- ・受講者 175名

また、当該事業の1案件として「外国人児童・生徒に対する日本語教育支援者養成講座」を開催しました。

日時：11月26日(木) 12月3日(木) 12月10日(木) 13:30～16:30
(3時間/日×3回=全9時間)

講師：吉田 麻子氏(つくば市風の会代表、協会日本語教育アドバイザー)

開催方法：オンライン開催

参加者：第1回 52名 第2回 47名 第3回 46名

◇地域日本語教育の体制づくり事業(受託)【新規】

多文化共生社会の推進、外国人に選ばれる県づくりのため、県内どこにおいても日本語学習の機会が得られる環境を構築しました。

① 地域日本語教育関係者連絡会議の開催

県内市町村、日本語ボランティア教室等を対象に、日本語教育に係る行政情報の伝達や情報交換、連携体制の構築・強化等を図りました。

県域を4つに分けて開催

- 11月17日(火) 県南地域
- 11月20日(金) 県北・県央地域
- 12月9日(水) 県西地域
- 12月17日(木) 鹿行地域

② 新規学習支援者の開拓講座

地域日本語教育人材の確保に資するため、新たな日本語学習支援者の開拓講座を実施しました。

1月～2月 県西の2市(下妻・坂東)で実施(オンライン開催)

下妻：1/17(日)・24(日)・30(土)、2/6(土)・14(日) (計5回) 受講者23名

坂東：1/31(日)、2/5(金)・12(金)・19(金)・26(金) (計5回) 受講者18名

③ 地域日本語教育コーディネーターの育成等

文化庁主催の「地域日本語教育コーディネーター研修」受講者のうち活動可能な方に、プロジェクトワーク等を通して、地域課題を抽出し解決に向けた取組を行っていただきました(オンライン開催)。

- 8月11日(火) フォローアップ研修及びコーディネーター会合
- 9月14日(月) コーディネーター会合
- 10月5日(月) 同上
- 11月9日(月) 同上
- 12月7日(月) 同上

2月 8日（月） コーディネーター会合

2月22日（月） コーディネーター会合ならびに全体報告会

② 外国人相談体制の充実

在県外国人が生活する上での疑問や問題を解決するため、弁護士会などの協力のもと、法律、労働、教育、婚姻など生活全般について年間を通じ相談事業を行いました。

また、市町村や民間国際交流協力団体とも連携し、地域における外国人対応や相談の環境を整えました。

◇外国人相談センターでは多言語による相談に対応できるよう、相談体制及び情報通信環境の整備など更なる充実を図りました。

・対応言語 日本語、英語、中国語、ポルトガル語、タイ語、タガログ語、スペイン語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語、 他

・相談件数 1,172件

項 目	件数	割合 (%)
出入国管理・在留カード	160	13.7%
労働関係・雇用・労災	97	8.3%
起業・会社設立・貿易	9	0.8%
結婚・離婚、夫婦、親子、家族	112	9.6%
国籍・帰化	22	1.9%
留学・研修	4	0.3%
医療関係	50	4.3%
社会保障・年金・保険	64	5.5%
税金	20	1.7%
教育、文化	21	1.8%
住居・くらし、交通・免許	164	14.0%
言語・翻訳・通訳	290	24.7%
案内・問い合わせ	115	9.8%
その他	44	3.8%
合 計	1,172	100%

◇無料弁護士相談の実施

毎月2回、高度な法律の相談について、弁護士相談を実施しました。

今年度は、感染症予防対策としてオンライン（Skype, LINE, Messenger）での対応を導入しました。

- ・実施場所 水戸市（茨城県国際交流協会 相談室）
- ・対応弁護士 2名
- ・実施回数 24回
- ・相談件数 70件

◇休日無料法律相談の実施

➤関東弁護士会連合会及び茨城県弁護士会と共催で、電話・ビデオ通話による多言語での休日無料弁護士相談を実施しました。（新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から対面での相談が難しいため）

- ・実施日 令和2年10月4日、11日（日）
- ・実施場所 （公財）茨城県国際交流協会
- ・相談対応者 弁護士：3名（10/4）、4名（10/11） 協会相談員：9名/日
- ・相談件数 14件
- ・共催 茨城県弁護士会、関東弁護士会連合会
- ・HP、ポスター、ちらし、SNS等で周知・広報

◇相談員研修の実施

- ・専門的な知識を蓄積することや相談対応についての検証等を目的に研修を実施しました。
- ・相談センター主催研修の実施 7回

（Zoomでのオンライン研修2回、外部講師を招いての研修3回）

外部講師：① 外国人材支援センター職員「茨城県外国人材支援センターの現状」
茨城県警（顔合わせ、現況説明）

② NPO 法人国際活動市民中心（CINGA）「外国人相談について」

③ 茨城県外国人材支援センター「介護について」

◇市町村、及び地域のボランティアとの連携による外国人対応や相談体制の整備

・市町村等県内の外国人対応・相談担当者や当協会登録の「外国人のための地域生活アドバイザー」を対象に、外国人が安心して生活できるための窓口対応等を目的として研修会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。

③ 多文化共生のためのサポーターバンクの運営

多文化共生の地域づくりを推進するため、語学ボランティアや日々の生活へのアドバイスをしてくれる人材を発掘登録することで外国人の支援者拡大を図りました。

◇外国人支援のための「語学サポーター」、「災害時語学サポーター」、「医療通訳サポーター」、「外国人のための地域生活アドバイザー」や相互理解を進めるための「各国事情紹介講師」、「ホームステイ・ホストファミリー」等の人材登録を推進し、活用を図りました。

登録活動状況

区 分	登録状況	活動状況
語学サポーター	31 言語 302 名	12 件 24 名
医療通訳サポーター	19 言語 153 名	3 件 3 名
災害時語学サポーター	20 言語 174 名	1 件 7 名
外国人のための地域生活アドバイザー	51 名	17 件 17 名
各国事情紹介講師	126 名	45 件 75 名
ホームステイ・ホストファミリー	83 名	1 件 3 家庭
合 計	延べ 889 名	79 件 126 名 3 家庭

④ 災害時・緊急時の在住外国人支援体制の充実・強化

災害時・緊急時には特に日本語が不自由であったり、生活環境に不慣れな外国人への支援のため、災害時の連携体制の強化を図りました。また、医療機関等で外国人がスムーズに受診できるような環境の整備を進めました。

◇留学生のための災害理解講座

留学生が日本で発生する自然災害に対し理解を深めるとともに、日頃の備えや災害時の情報入手方法等について学ぶことができる機会を設けました。

- ・実施日時 令和2年10月31日（土） 10:00～12:00
- ・実施場所 オンライン開催（ホスト：当協会）
- ・内容 国立研究開発法人防災科学技術研究所職員による防災科学実験ほか
- ・共催 茨城県

◇広域での連携による災害時の支援体制の整備

- ・関東地域国際化協会連絡協議会と連携し、災害時に外国人支援に従事する関係者向けの研修に参加しました。

令和元年度発生災害時の外国人支援対応に係る振り返りの会

- ・主催者 一般財団法人自治体国際化協会（クレア）
- ・実施日 令和2年8月6日（木） 14:00～16:00
- ・実施場所 オンライン会議
- ・コーディネーター クレア地域国際化推進アドバイザー 高橋 伸行 氏
- ・内容 令和元年の台風15・19号の際に行った外国人支援について情報共有、意見交換を行い、今後の取り組みにつなげるとともに、県を越えた担当者間の連携を深めました。

◇災害時マニュアルの配布と電子書籍での提供（9言語）{1（1）①参照}

◇多言語での外国人医療サポートの実施

- ・13言語でのメディカルハンドブックにより外国人が医療関係者とのコミュニケーションを容易にできるよう支援します。{1（1）①参照}
- ・病院等、医療機関からの要請により、医療通訳サポーターを派遣します。

（2）外国人による地域活動の推進

① 在住外国人や留学生の地域活動への参画拡大

地域社会における多文化共生推進の担い手として、外国人住民が自ら活動できるよう、地域の人材の発掘・活用に努め、イベントや講座等、地域活動への参加を促進しました。また、留学生や本県在住の外国人等、グローバルな人材により、地域の魅力発信等の活動を推進しました。

◇ワールドキャラバン国際理解教育講師等派遣事業の実施{3（2）①参照}

◇「ふれあい茨城」交流の広場での外国人の地域活動記事紹介{2（1）①参照}

◇外国人の多文化共生サポーターバンクへの登録・活用{1（1）③参照}

2 グローバル交流の推進

（1）国際活動情報の提供

① 情報提供等シンクタンクとしての役割強化

県民のグローバル交流を活性化するために、海外の情報や、国際機関、県、各種団体等の国際

交流情報を集積・提供しました。

◇機関誌「ふれあい茨城」の発行

協会や民間国際交流・協力団体の活動や、国際理解を推進するための情報を紹介する機関誌を発行しました。

・発行時期 年2回（9月、3月）

・発行部数 各4,000部

◇ホームページによる情報提供

当協会の事業、及び県内の国際交流活動団体の情報を集積・発信するとともに、随時県内外の国際活動関連の記事やイベント情報等を発信しました。

◇国際ナショナルライブラリーの運営

国際交流、国際理解、日本語教育、国際協力等、国際活動に関わる雑誌、図書等を収集及び貸出しをしました。

・蔵書数 書籍等1,196冊、ビデオ等91本

・貸出数 書籍0冊、ビデオ等0本

（2）国際交流・協力の推進

① 県民の国際交流活動の推進

県、市町村、市町村国際交流推進組織、民間国際交流協力団体等との連携により、県民の国際交流活動への参加を促し、活動の充実を図ります。また、外国人が住みやすい環境を整備するために、関連機関と連携し地域住民と外国人との交流を推進します。

◇国際交流・協力ネットワーク会議の開催

民間国際交流・協力団体や市町村の国際交流担当者等を対象に活動の情報交換及び研修を7月に実施予定でしたが、会議の性質上、新型コロナウイルスの感染拡大防止が難しいため、今年度は開催を中止しました。

◇イベントや地域活動等への在住外国人の参加支援と交流機会の提供

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、イベント等への出展参加は中止しました。

◇茨城県国際交流協会事業ボランティアの登録・活用

協会が主催する各種事業（外国人による日本語スピーチコンテスト等）に協力を得られるボランティアの登録を促進し、協会事業の円滑な運営を図ります。

・登録活動状況

登録者数 20名

◇研修室の貸出し

国際活動を実践するボランティア団体等に研修室やボランティアルーム等活動場所を提供しました。

② 国際協力活動の推進

（独）国際協力機構筑波センター（以下「JICA筑波」）と連携し、途上国支援等国際協力に関する事業を行います。また、海外の自然大災害時の被災国支援やNGO活動の支援を行います。

◇JICA海外協力隊等、国際協力への参加促進

◇高校生のための地球市民講座の開催{3（2）②参照}

◇義援金・書き損じはがき等の募集

- ・県民の協力により書き損じはがき、外国コインなどを収集換金し、国際協力を行っている団体の活動を支援しました。

区分		実績	支援団体
書き損じはがき		2,260 枚	茨城キリスト教学園キリスト教センター NPO 法人シェア NPO 法人日本国際ボランティアセンター 茨城県ユニセフ協会、日本ユニセフ協会
切手	未使用	額面 15,579 円	
	使用済	約 14.0 kg	
使用済プリペイドカード		1,030 枚	
外国紙幣		161 枚	
外国コイン		約 10.4 kg	
現金類		27,611 円	

(3) 産業のグローバル化への支援

① 企業の海外展開等への協力

国境を越えた経済活動が拡大する中、留学生等グローバルな人材の活用を図り、県内企業の海外進出や対日投資への協力を行います。また、留学生等が県内企業への理解を深めるための事業を実施します。

◇通訳及び海外への広報支援

県産品の海外輸出や観光分野等への語学支援等の協力を行います。

◇留学生と県内企業のマッチング支援等

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止しました。{3 (2) ③参照}

② 外国人による茨城の魅力発信

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止しました。

◇留学生研修の実施

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止しました。{3 (2) ③参照}

③ 観光分野等の語学協力

国際観光の拡大により本県においても訪日外国人が増加することが予想されるため、当協会に登録する語学サポーターへの啓発や、外国人受け入れへの支援者の拡充を図りました。

茨城県国際観光課主催の県内観光施設タクシーモニターツアーに留学生等の外国人が協力しました。

コース	参加者	実施日
和服で日本文化に触れる	ウクライナ人留学生 1 名	12 月 24 日
現代に生きる武家の歴史	イギリス人、カナダ人の ALT 各 1 名	県の緊急事態宣言のため延期
日本三名爆袋田の滝と竜神大吊橋	中国人留学生 2 名	県の緊急事態宣言のため延期
筑波山眺望	中国人留学生 3 名	県の緊急事態宣言のため調整保留

3 グローバル社会へ向けた人づくり

(1) 国際理解を推進するための事業実施体制の整備

① 県や関係機関との横断的連携体制の整備

国際理解を推進するために県や関係機関との横断的連携体制をとるとともに、留学生や在住外国人及びファシリテーター等国際理解をすすめる人材の発掘・育成を図りました。また、教材収集など事業実施体制を整備しました。

◇茨城県国際理解教育推進協議会の運営

当協会、県、県教育委員会、JICA筑波、大学留学生協議会等関係8団体による協議会を運営し事業を効果的に行いました。

・幹事会 令和2年8月3日(月)

・総会 令和3年3月22日(月)

◇茨城県留学生親善大使の任命

県内の留学生を茨城県留学生親善大使に任命し、国際理解事業や国際交流事業に派遣することにより、県民の国際活動を推進しました。

(任命期間) 令和2年7月から2年間

(対象) 県内大学等に在籍する留学生

・令和2年度登録者 10ヵ国46名

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和2年7月11日(土)にオンラインで交流会を行いました。

・ワールドキャラバン派遣者数 延べ28名

◇国際理解教育研修会の実施

国際理解教育を推進する人材を育成する目的で、小中高等学校の教員や国際理解教育のファシリテーター等を対象に研修を実施予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために中止しました。

◇国際理解教材収集・貸出しの実施

県内の国際理解教育を実施するため、各国からの教材を収集し貸出しを行いました。

・対象 県内学校、国際理解教育を行う民間団体等

・教材数 102ヵ国909点

・収集内容 国旗、民族衣装、工芸品、図書等

・貸出実績 10回

(2) 相互理解・国際理解の推進

① 県民の国際感覚醸成

互いの生活、文化、習慣の違いを認識し、外国人と地域住民が協力して多文化共生地域づくりをすすめられるよう県民の国際感覚を醸成し、相互理解・国際理解を促進しました。事業の実施にあたっては留学生親善大使や県内に在住する外国人の活用を図りました。

◇ワールドキャラバン国際理解教育講師等派遣事業の実施

外国人講師及びファシリテーター等を学校や生涯学習の場に派遣し、異文化に触れたりワークショップを体験するなど国際理解教育の機会を提供しました。

・時期 令和2年9月～令和3年2月

・場所 県内学校、生涯学習関連団体活動場所等

- ・講師 留学生、国際交流員、県内在住外国人、海外国際活動経験者及び当協会登録ファシリテーター等

ワールドキャラバン国際理解教育講師等派遣事業派遣実績

区 分		派遣回数	参加者数
派遣先	小 学 校	16 回	1,368 名
	中 学 校	6 回	418 名
	高等学校 (含 中等教育学校)	11 回	993 名
	特別支援学校	5 回	158 名
	生涯学習関連施設等	12 回	294 名
	合 計	50 回	3,231 名
派遣講師数		89 名	
派遣コーディネーター数		8 名	

◇外国人による日本語スピーチコンテスト

在住外国人の日本社会への意見などを聞くことで県民との相互理解を図るとともに、外国人に日本語による意見発表の機会を提供することで日本語学習意欲を醸成しました。県の緊急事態宣言発令により、オンライン開催 (YouTube ライブ配信) に変更して実施しました。

- ・時 期 令和3年2月13日 (土) 13:00~15:30
- ・場 所 オンライン開催 (配信ホスト、審査委員の審査会場: 当協会)
- ・発表者 県内在住外国人15名
- ・本審査 知事賞、県議会議長賞、教育長賞、ひばり賞、特別賞 (審査員7名により審査)
特別荣誉賞 日本語ボランティア賞、若人賞

◇世界文化セミナーの開設

本県在住の外国人を講師として迎え、文化・社会について話し合いをする英語によるセミナーを実施しました。

- ・時 期 春コース: 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため開催を中止しました。
秋コース: 10月~1月 (水曜 午後クラス 8回) ※オンライン開催
- ・対 象 県民 (30人程度)

秋 期	令和2年10月14日 (水) ~ 1月27日 (水) 全8回 (参加者 午後クラス38名)
-----	--

② 世界で活躍する人材の育成

特に若い世代の活動を支援し、将来世界で活躍する人材の育成を図るために、海外研修や、国際体験を促進するための事業を実施します。

◇海外研修の実施

大学生等を対象とし、将来世界で活躍する人材や地域で国際交流を推進する人材を育成するため、海外研修を企画する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止及び各国において入国制限措置や入国後の行動制限措置がとられていることから、中止することとしました。

◇高校生のための地球市民講座の開催

高等学校やJICA筑波と連携し、高校生を対象にワークショップ等を通して国際協力への

理解を深めます。

※新型コロナウイルス感染防止の観点から、規模及び内容の大幅縮小となり、ワークショップ開催は中止となりました。

◇日本発/世界発 青年のメッセージ

茨城県高等学校国際教育研究協議会が実施する国際教育弁論大会にあわせて、当協会が留学生によるシンポジウムを主催することで、日本の若い世代へのメッセージを発信します。

※新型コロナウイルス感染症の影響で、施設工事が遅延し会場が使用できない等の理由から、中止となりました。

◇インターンシップ等の受け入れ

今年度は中止となりました。

③ 留学生の多様な社会体験機会の提供

留学生の活動を支援することで、将来地域社会に貢献し本県との架け橋となる人材の育成を図りました。

◇クエスト茨城留学生研修

県内で学ぶ留学生を対象として、茨城県に立地する企業、文化施設、史跡などを訪問し、茨城県についての理解を深めます。

県内各大学の新型コロナウイルス感染拡大防止に係る体制をみて、大学の垣根をまたいで参加者を集める本研修を開催するのは難しいため、中止しました。

◇ワールドキャラバン国際理解教育講師等派遣事業の実施{3(2)①参照}

◇茨城ふるさとファミリー事業

留学生や在県外国人が当協会登録のボランティアの家庭にホームステイをすることをきっかけに継続的交流をし、「茨城の家族」を作る場を提供しました。

・時 期 令和2年10月3日(土)・4日(日)

・対 象 留学生親善大使 3名、受入 3家庭

4 茨城県国際交流協会30周年記念事業

当協会の設立30周年の年にあたることから、関係機関及び県民を対象に記念講演会・交流会の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止しました。

◇30周年記念誌の発行{2(1)①参照}

9月発行の機関誌「ふれあい茨城」112号において30周年記念特集を組みました。

30周年記念誌を作成しました。

5 上海事務所運営事業

県内企業の活動支援や中国に関する情報の収集・提供や友好交流活動の支援等を実施しました。

(1) 本県の産業拡大への支援

見本市への出展等により、本県の観光物産、県産品や茨城空港のPRを実施した他、対日投資促進に向けたPR活動を実施しました。

【主な出展行事等】

・「漣泉大江戸」施設での観光PR

日 時 2020年7月15日(水)～8月31日(月)

- 場 所 「漣泉大江戸」五角場店（上海市）
- 内 容 県内温泉や観光地のPRを実施
- ・中国（蘇州）国際シルク博覧会
 - 日 時 2020年7月31日（金）
 - 場 所 蘇州国際博覧センター（蘇州市）
 - 内 容 結城紬や県内観光地のPRを実施
- ・江南美食祭り～日本文化美食週
 - 日 時 2020年9月17日（木）～18日（金）
 - 場 所 上海錦江樂園（上海市）
 - 内 容 県内観光地や特産品のPRを実施
- ・中国国際旅游交易会 2020
 - 日 時 2020年11月16日（月）～18日（水）
 - 場 所 国家会展中心（上海市）
 - 内 容 県内観光地のPRを実施
- ・2020 深圳旅游博覧会
 - 日 時 2020年11月20日（金）～22日（日）
 - 場 所 深圳市（福田）会展中心（深圳市）
 - 内 容 県内観光地のPRを実施
- ・広州正佳広場国際ショッピングフェスティバル日本ブランド展
 - 日 時 2020年12月23日（水）～26日（土）
 - 場 所 正佳広場<JNTO JAPANフェア内ブース>（広州市）
 - 内 容 県内観光地のPRを実施
- ・広州ジャパブランドフェア
 - 日 時 2021年2月27日（土）～28日（日）
 - 場 所 広州市東方宝泰ショッピングセンター（広州市）
 - 内 容 県内観光地や伝統工芸品のPRを実施
- ・重慶ジャパブランドフェア
 - 日 時 2021年3月20日（土）～21日（日）
 - 場 所 新光天地百貨（重慶市）
 - 内 容 県内観光地や伝統工芸品のPRを実施

（2）企業活動支援事業

商談会への合同出展、現地バイヤーとのマッチングや中国の経済事情の調査等を実施し、県内企業の中国における販路開拓を支援しました。

- ・FBC広東ものづくり商談会 in 南海
 - 日 時 2020年9月23日（水）～24日（木）
 - 場 所 樵山文化センター（佛山市）
 - 内 容 県内企業のブース出展を支援
- ・第3回中国国際輸入博覧会
 - 日 時 2020年11月5日（木）～10日（火）

場 所 国家会展中心（上海市）

内 容 県内企業のブース出展を支援

・中国（青島）国際輸入消費品博覧会

日 時 2020年12月18日（金）～20日（日）

場 所 青島世界博覧城＜JETRO 日本館内ブース＞（青島市）

内 容 県内企業のブース出展を支援

・茨城県伝統工芸品展

日 時 2021年1月20日（水）～26日（火）

場 所 上海高島屋（上海市）

内 容 県伝統工芸品の特設展示販売を支援

（3）日中友好活動支援

中国事情に関する情報提供を実施しました。

（4）上海ネットワーク構築事業

①上海茨城県人会運営協力

上海市等に在住している本県出身者をネットワーク化し、情報交換となる場を提供しました。

②上海茨城留学生協議会運営協力

新型コロナウイルスの影響を踏まえて総会開催を見送る一方で、本県への留学経験者に対してメールを送付し、今後の本県事業展開への協力を依頼しました。

（5）情報収集・提供事業

・ホームページにより中国事情、ビジネス情報、展示会情報等を提供しました。

・中国人向けに、ソーシャルネットワーク「微博」「微信」を活用した情報発信を実施しました。

微博フォロワー数：92,230人、微信フォロワー数：5,993人